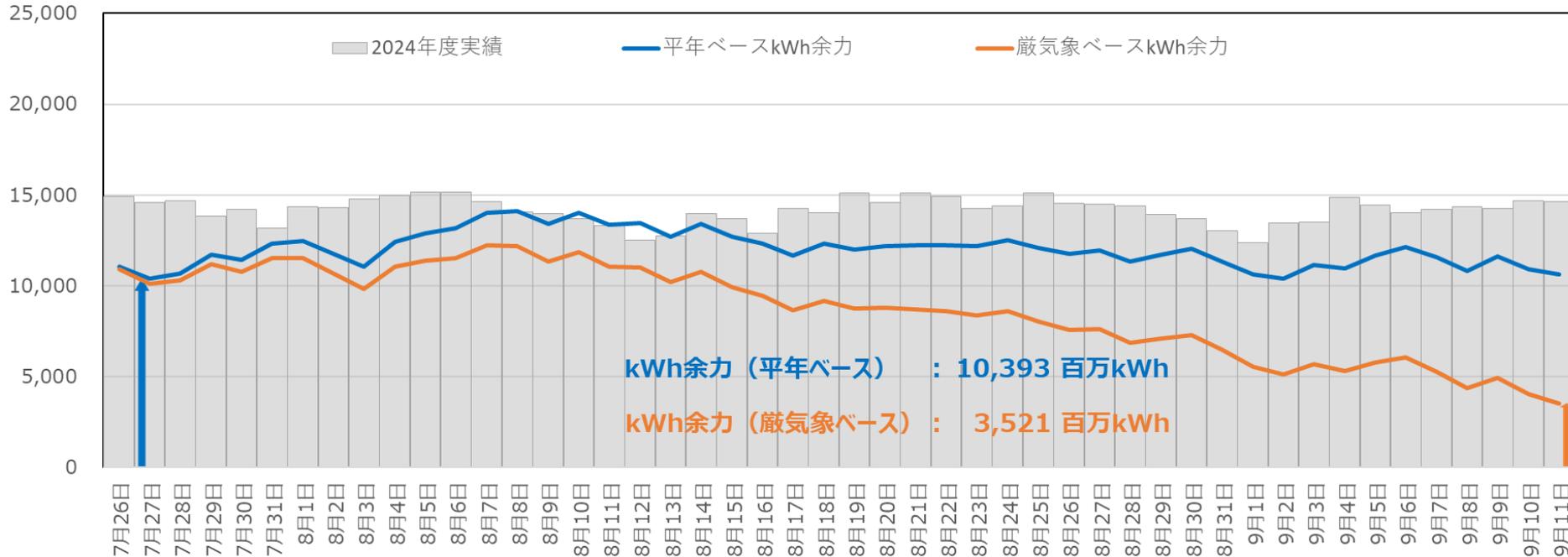


kWhモニタリング（対象期間:7/26～9/11）の結果

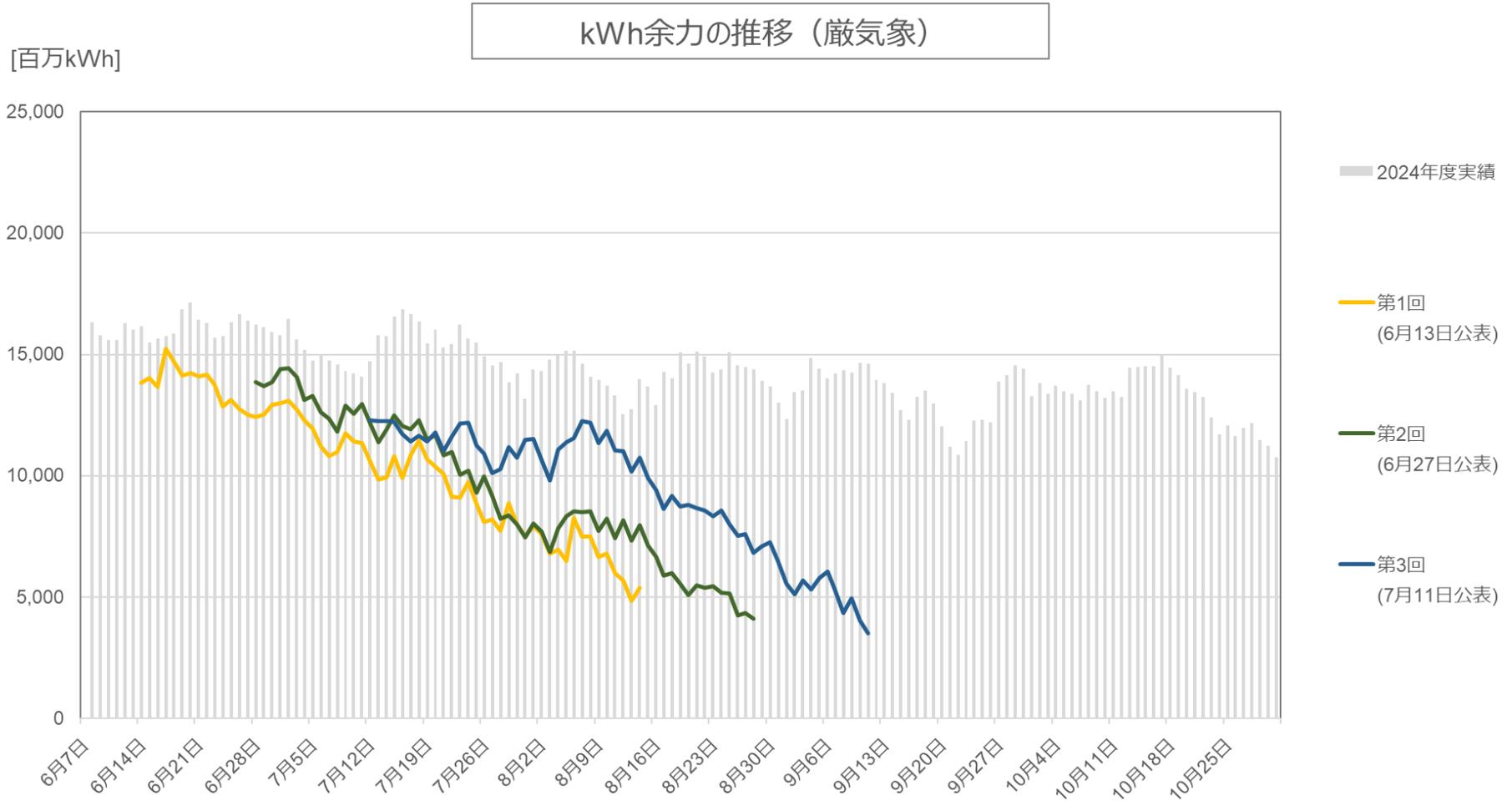
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は7月27日に最小となる見込み。その値は **10,393百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約4日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、9月11日に**3,521百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約1日分**に相当。
- 前回から傾向に大きな変化はなく、現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、厳気象ベースでは在庫レベルが低めとなる可能性もあることから、今後の需要の増加や原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止などの動向を注視していく。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第2回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、一部事業者の燃料調達等の影響により、8月以降のkWh余力が増加。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない